



2009.5

No. 184

MONTHLY

れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 村田 仁

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

第80回全道メーデー開催される

200団体8,000人が参加、一層の団結誓う

桜の花が咲く晴天の下、札幌大通公園8丁目広場で第80回全道メーデーが開催された。

今年のメーデーは、「すべての働くものの連帯で「平和・人権・労働・環境・共生」に取り組み、労働を中心とする福祉型社会と自由で平和な世界をつくろう！」をメインスローガンに、200団体8000人が参加して行われた。また全道162地域でも開催され、21万人が労働者の祭典を祝った。

実行委員会を代表して挨拶に立った高柳大会長(連合北海道会長)は、政府の09年度補正予算について、「費用対効果の懸念はもとより、社会保障をはじめ国の将来展望が示されていない」「国債増発の負担が消費税増税とともに国民生活に跳ね返る」として、民主党を中心に国会議論を重ねるよう訴えた。

また、09春期生活闘争での産別・単組の健闘を称えるとともに、厳しい状況が続く雇用・失業問題にふれ、「労働市場の流動化をはじめ規制緩和を優先し、弱者対策を軽視した」政治や経済活動を糾し改めていかなければならないとした。

最後に、今、「民主党に期待されるのは、格差社会を拡大し、2極化を加速させた自民党政治からの転換・政権交代を果たすことであり、連合北海道は道内全選挙区での民主党の勝利を目指して戦いを進める」と、連



合北海道の衆議院選挙に対する姿勢を今一度明らかにした。

これに対し来賓として出席した小沢一郎民主党代表も「5月1日にメーデーを開催していることこそ、北海道の固い決意と団結の証」として、「国民の元気、北海道の活力を取り戻すため、国民の生活にたった政治を実現させる」と政権交代実現に向け、「身の果てるまで、障害を乗り越えて使命を達成する」と決意を述べた。また、社民党北海道山口タカ副代表、新党大地代表鈴木宗男衆議院議員もそれぞれ衆議院選挙勝利を訴えた。

この他、高橋はるみ知事、上田札幌市長からも来賓のご挨拶を頂いた。

その後、「私たちは、核兵器廃絶と世界の恒久平和の



実現、人権侵害救済のため、訴え、行動していく」今こそ、すべての働く者の連帯と、NPO・NGOとの連携で『平和・人権・労働・環境・共生』に取り組み、労働を中心とする福祉型社会と自由で平和な世界を実現する」としたメーデー宣言と、「景気回復、雇用と暮らしの安心を求める特別決議」衆議院の早期解散と政権交代を求める特別決議」を満場の拍手で採択し、高柳大会長の音頭によるガンバロー三唱の後、市内パレードを行った。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/2009/monthly_new_2009_0501_80mayday.html



「さっぽろ駆け込み寺」閉館する

協力団体に感謝状を贈呈

連合北海道は、2月14日から取り組んできた今回の経済危機により住居を失った労働者へ一時的な住まいを提供する「さっぽろ駆け込み寺」が4月末日で終了するにあたり、4月28日、支援を頂いた産別、団体など約50人が参加して閉館式を行った。

冒頭、連合北海道の高柳会長は「各産別、団体の皆様の支援により運営することができた。入居した29名のうち、道内の厳しい雇用情勢もあって再就職が決定したのは6名であったが、その他の方々もそれぞれ生活の地盤を築き、再就職への出発をすることができた。」とあいさつした。

また、施設を提供いただいた本願寺札幌別院の藤井輪番は「昔のお寺はお葬式だけでなく、様々な役割を果たしており、こういったことも本来はお寺の役目だった。今回、連合の取り組みによりそれを実現できたこと、そして大勢の方々のご支援の輪が広がったことが何よりうれしいことである」と述べた。

その後、今回、特にご協力頂いた団体に対し、高柳会長・藤井輪番から感謝状の贈呈を行った。



をご提供頂いた。

そば処 SHIOTARO

4月から新装開店されるにあたり、入居者にモニターとして食事を提供頂いた。

桑園第五町内会

町内会長が札幌別院の隣でコンビニエンスストアを経営。入居者が大変お世話になった上、婦人部の皆様からおにぎりやパンといった食料品を度々差し入れて頂いた。

北二条クラブ

入居者の健康相談会を実施するにあたり、お部屋とお風呂を提供頂いた。

(株)北海道アルバイト情報誌

就職情報誌「シゴトガイド」に駆け込み寺の開設広告を無料で掲載頂いた。

JR総連北海道地方協議会

今回、多くの産別から食料品だけでなく、風呂券やテレフォンカード、ウィズユーカードなどを提供頂いたが、その中でも開設当初よりおよそ10回の炊き出しをして、入居者に暖かい食事を提供頂いた。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/2009/monthly_new_2009_0428_kakekomi_closing.html

[感謝状を贈呈した団体]

特定非営利活動法人 ひよこ

3月10日から15日間、10人分、合計150食分の無料食事券



地域医療の崩壊を食い止めるのは北海道の責務

札幌でシンポジウム開催、全道から250名が参加

連合北海道地域医療を守る対策委員会は4月11日、札幌市でシンポジウム「地域医療の崩壊を食い止めるために」を開催した。全道各地から産別、地協、退職者連合、一般参加者250名が参加し、道内の医療提供体制の現状や問題点、地域医療連携に関する砂川市立病院の取り組み報告を受けて、住民本位の安心安全、信頼の地域医療にむけ、地域でさらに取り組みを強化していくことを確認しあった。

冒頭、連合北海道の高柳会長は、千葉県銚子市で自治体病院の休止問題をめぐり市民からのリコール請求によって市長が失職した事態にふれ、「地域医療は地域・住民の意思表示により『こと』を動かせるほど重要な課題である」とし、「私たちが地域の課題に関心を持ち、行動を起こさなければ事態は変わらない。地域の24時間の安心・安全な医療体制の『あるべき姿』を、まずは自治体で、次に広域連携で、そして北海道で、それぞれの役割について地協・地区連合の立場、段階での議論をお願いしたい」と強調した。また、「道民の安心・安全は1市町村で賄えない。北海道の責任でプランニングやサポートが必要」と指摘した。

患者への責任を北海道として果たすべき

講演では北海道の医療機能の現状」と題して、北海道病院協会の徳田禎久理事長から、独自にまとめた道内各地の医師・看護師の配置状況や診療科の分布を基に、北海道の医療提供体制の問題点を指摘した。

まず北海道全体をみれば病院数も病床数も多いが、広域、医育大学の環境変化、厳しい診療報酬改定、自治体財政の危機により医療提供に大きな地域格差があると共に地域の重要な位置付けにある自治体病院等の経営が危機にあると指摘した。

特に「大学病院が独立行政法人化になったことにより、高度医療を担う病院から一般病院と同様な経営重視の視点となり勤務医の労働強化につながった。地域医療を確保するためにも、どのような診療科目が必要なのか、本来であれば北海道が分析し、それに基づき医療計画を立てなければならないにも拘わらず、我々(医療提供者)が分



析を行っている。医師不足が言われているが原因には行政の怠慢がある。地域医療に手を打ってきたのか。道内の患者への責任を道としても果たすべき。また2~3年前のマスコミによる医療バッシングの影響も少なくない。砂川市立病院が、地域医療を真剣に考え取り組んできたように、時間はかかるが実現する」と話した。

自己完結型医療から地域完結型医療への転換

つづいて「地域医療の確保と医療連携」と題して全国自治体病院協議会北海道支部事務局長の小俣憲治氏(砂川市立病院事務長)は、「全国的に医師不足の中、2003年度から2008年度の間で医師が19人増えた。これは受け入れ体制の強化、砂川市として環境づくりに先行投資をしてきた結果である。受診者の64%が市外からであり地域の為の病院として位置づけ取り組みを進めてきた。何故今医療連携が必要なのかを考え、『自己完結型医療』から『地域医療完結型』への転換をはかってきた成果である」と、地域医療連携に関する砂川市立病院の特徴的な取り組みを話した。小俣氏は最後に地域連携を通じて学んだことと前置きし、「動かすのは人、人と人とのつながりで連携は生まれ、物事は動いていく」と強調した。

空知十勝の取り組み報告

連合北海道は今日まで各地域でチラシ配布や署名活動に取り組んできたが、シンポジウムでは空知地協と十勝地協から報告をいただいた。

空知地協の運上事務局長は、「地域住民アンケートの実施などによって、安心・信頼の地域医療を求める住民の思いが明らかになった。高橋道政は財政再建を優先し、地域切り捨ての道政運営を行おうとしている。一方的な議論にならないよう、地域に根ざした議論をすすめて、本当の意味での地域医療を確立できるよう引き続き活動していきたい」と、また十勝管内の「自治体病院等広域化・連携検討



会議」の構成メンバーとなった十勝地協の岡村副会長からは、今年1月に開催された1回目の会合の内容が報告され、「医療は身近な行政だ。住民の声が行政を動かす。住民の声を大事にして取り組んでいきたい」と、それぞれ今後の決意を述べた。

地域住民の思いに応えた事業計画を

その後徳田禎久氏、小俣憲治氏に北海道医療等関連労働組合連絡協議会の渡部基久議長を加え、鼎談 していた

ん)が行われた。前段の講演内容の豊富化や会場からの質問などを受け、地域医療と病院経営 医師確保について 医療の自己完結型・ネットワーク型等を中心に話し合われ、各氏とも地域住民が何を求めているのかを考え、事業計画を策定するべきであり、そのためには行政の大きな関わりが必要であると指摘した。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/2009/monthly_new_2009_0411_medical_symposium.html

全国一斉に緊急相談ダイヤルを実施

2日間で全道から42件の労働相談

連合北海道は、4月7、8日の両日、労働相談ダイヤルを実施した。

今回の相談ダイヤルは、多くの企業が決算期を迎え、非正規雇用労働者をはじめとした解雇・雇い止め等の問題が増加する恐れがあることから、不当な解雇・労働条件の切り下げを許さないことと、相談者の生活・就労面を含めた不安に対応するため、全国一斉に実施されたものである。

連合北海道には、2日間で全道から42件の相談が寄せられ、特徴的な相談内容としては、正社員から契約社員への変更や社会保険への未加入など労働条件に関する相談の他、内定取り消し、転職・求職に関する相談も多く寄せられ、道内の厳しい雇用状況が表されている。

連合北海道は、今後も不当な解雇・雇い止め等は絶対に

許さないとの社会的メッセージを発信し、労働者の雇用と権利を守る取り組みを続けていく。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/2009/monthly_new_2009_0409_sodan_aj.html



5月の主な動き

企画会議

11日(月)10:00 / 連合北海道会議室

連合20周年PT第5回会議

12日(火)13:30 / 総評会館

第2回男女平等参画推進会議

14日(木)10:00 / 連合北海道会議室

「新しい貧困問題と生活保障を考える」シンポジウム

14日(木)14:00 / 自治労会館

職場の権利教育ネットワーク

第3回役員会

14日(木)18:00 / 連合北海道会議室

第8回全国男女平等推進委員会

委員長会議

15日(金)10:00 / 総評会館

第1回ボランティア講座

15日(金)18:00 / ポールスター札幌

第4回ユニオンスクール

15日(金)18:30 / 自治労会館

安心と信頼の医療と介護

2009中央集会

16日(土)10:00 / 東京ビックサイト

連合北海道20周年実行委員会

20日(水)09:30 / KKR札幌

第20回中央執行委員会

21日(木)13:30 / ホテルラングウッド

安全センター第13回総会

21日(木)15:00 / ロイトン札幌

職場の権利教育ネットワーク総会

21日(木)18:00 / 自治労会館

組織拡大オルガナイザー会議

22日(金)18:00 / 連合北海道会議室

常駐者会議

25日(月)10:00 / 連合北海道会議室

第7回執行委員会

27日(水)10:30 / ロイトン札幌

組織財政検討委員会

第5回小委員会

27日(水)13:30 / ロイトン札幌

第6回地協事務局長会議

28日(木)10:00 / 連合北海道会議室

第2回政策委員会

28日(木)13:30 / ポールスター札幌

第33回全道勤労者総合文化祭

【開催期間】2009年7月1日(水)～5日(日)

【開催場所】札幌市民ギャラリー

【作品受付】6月20日(土)13時～
22日(月)12時まで

【お問い合わせ】

全道勤労者総合文化祭実行委員会
TEL011-261-0020(労文協)